



題字 萩原田 親

No. 569

2009/3/25

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0045 東京都千代田区
西船場1-1-1 東1号ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒702-8256
岡山市東区3-8-30 511
TEL.0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8911
倉敷市遊鳥中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



日中友好協会岡山支部

理事会だより

3月12日理事会は6人でした。この1カ月での重要案件は、2月24日の岡山地裁判決です。近下裁判長ら3人の判事は、憲法前文にある平和的生存権を国民の基本的人権そのものと考えざるべきであるとして、徴兵拒否権、良心的兵役拒絶権、軍需労働拒絶権等の自由権の基本権として存在する」としました。4月23日には同じイラク訴訟1・2次に対する判決が予定されています。注目し裁判官の良心に期待してい

ます。
☆日中文化講座の取り組みが、今回の中心議題でした。誰が、なにを担当するか、かなり細かいところを議論し、特に100人に県立図書館に来てもらうために、チラシとチケットの配布に力を入れることになりました。皆様方のご協力をお願いいたします。
☆中国語講座は4月から上級と中級については、受講料を月額500円の値上げが了承されました。
☆4月4日(土)午後6時から又來軒で講師、クラス委員との懇親会があります。
理事長 竹内和夫

写真展

「祖国よ 中国残留日本人孤児はいま」

今年も岡山市役所ロビーで「中国残留日本人孤児」写真展を開催します。

今回は、兵庫県の写真家宗景正さんが撮影した兵庫の「孤児」と岡山原告団の3役(高杉、大森、高見)を中心にした展示です。また、中国残留邦人支援法が改正されて1年が経過した「いま」の中国帰国者の実情を伝えることができればと思っ

とき:4月20日(月)~22日(水)
時間:20日(月)10:00~17:00
21日(火) 9:00~17:00
22日(水) 9:00~14:00
ところ:岡山市役所1階ロビー

【展示内容】

- ・中国「残留日本人孤児」とは
- ・中国「残留日本人孤児」の歴史
- ・中国「残留日本人孤児」の「現在」
- ・中国帰国者との交流会(2008年4月~2009年3月)
- ・日本語教室の歩み(2004年10月~2009年3月)

主催:日中友好協会岡山支部
中国帰国者の日本語教室岡山の会

連絡先 日中友好協会岡山支部 事務局長
中国帰国者の日本語教室 岡山の会事務局長
小林軍治
〒702-8005 岡山市江崎 169-6
TEL/FAX 086-277-2470
携帯 090-8240-2001



樋口さん宗景さん、高見さん、烏蘭さん



高杉さん、烏蘭さん、樋口さん、宗景さん

新支援法の効用が具体的に

一岡山市との話し合い

日本語教室・岡山の会

3月5日(木)に日本語教室・岡山の会は岡山市保健福祉局の担当者、来年度からの中国帰国者のための日本語教育について話し合いを持ちました。日本語教室からは岩間県連絡協代表、小林同事務局長、井上岡山の会代表が出席しました。話し合われた主な内容は次の通りです。

- 1、講師の謝礼金は現行の1回開催につき2名までの支給を実数分に改善する。
- 2、教室開催費(会場費)を市で負担する。
- 3、日本語教室主催行事(記念行事、研修旅行、講演会等)への支援を検討する。
- 4、中国帰国者支援相談員と日本語教室講師との交流会を検討する。

これらの内容には、私たち講師団でも検討する必要が含まれているので、次回講師団会議に諮る予定です。
新支援法が施行され中国帰国者の皆さんへの支援が拡充され喜ばれています。そして支援の柱の一つである日本語習得のための活動も少しずつ財政的に裏づけされつつあることを実感します。それだけに私たち講師一人ひとりいっそう研鑽をして期待に応えなければいけないと思いました。
余談ですが、今回の会合のために案内された部屋は、小さな物置部屋でした。私たちが冷遇されているからか。さにあらず。新年度からの政令市への移行に伴う様々な変更で市庁舎全体がてんやわんやしていたためでした。
政令市になることが私たち市民にとってよい効果を上げてほしい、と思ったことでした。
井上進夫

日中岡山「9条の会」

読書会

「上野千鶴子を読む」

第1回「おひとりさまの老後」

日時:4月19日(日)
午前10時~12時まで
場所:岡西公民館・研修室
参加費:100円(茶代など)
どなたでもご参加ください。
また、上野千鶴子さんの本を続けて読んでいく予定です。

主催:日中岡山「9条の会」
連絡先:☎086-254-7457
メールアドレス
momoko53@coral.plala.or.jp

魯迅と内山完造(2)

日中友好協会倉敷支部支部長 大森久雄

一 内山完造は明治18年(1885)1月11日、後月(しつき)郡吉井村沢岡(さおか)に生まれた。現、井原市芳井町。高小中退で大阪に奉公に出、後、田口参天堂の上海出張員となり、大学目薬販売に当たる。キリスト教に入信し、井上みきと結婚する。

大正6年(1917)妻がキリスト教関係書を自宅で内職に売り始める。二階のたんすの上に並べられた100冊ほど。内山書店誕生である。

以降、しだいに本の分野も広がり、冊数も増える。中国人、日本人を問わず読者を信用し、掛け売りにも応じる。盗難にも会う。その都度、借金を払ってくれる人

が出たりし、かえって大勢の人に支えられる。

二 関東大震災後、客のT先生が、蔵洋書3600冊を罹災した図書館へ贈るのを仲介する。その他、書物を通しての日中間の文化交流が語られている。

魯迅は昭和2年(1927)10月、内山書店に現れる。46歳。内山は42歳。以後、9年間の親交が始まる。

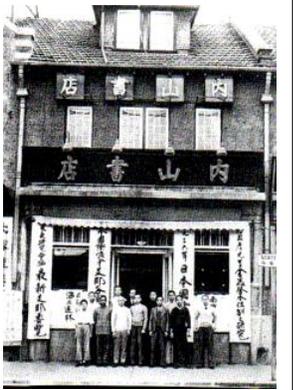
この点は、近刊の南一平作画『漫画 内山完造の生涯』(先人顕彰会・井原 2008年9月)に簡明に描かれる。

内山完造さんのこと その4 — 没後50周年に寄せて —

日中友好協会倉敷支部理事長 栗本泰治

今年の内山完造没後50周年にあたります。先日、駐大阪総領事の鄭祥林さんが岡山県知事を訪問し、岡山県は、日中友好の架け橋となった内山完造さんや岡崎嘉平太さんを中心に日中友好の先進県です」と今後の日中友好の進展を期待するご挨拶があったとTVが放送していました。

内山完造さんの出身地、井原市では没後50周年を記念して昨春秋には、完造の生涯を描いた漫画『内山完造の生涯』が出版されました。そして、それに続いて今年5月には市民主体で記念式を開催するほか、完造と親交のあった作家、魯迅の長男の周海嬰さんの講演会を企画するなど準備が進んでいます。



年、北四路路地の突き当たりには店が移る。写真でよく見る内山書店である。今は中国商工銀行の支店。壁に書店址の板がある。階上に資料室ができたとも聞いた。

魯迅は許広平と結婚する。翌年、内山は参天堂を退社し、書店経営にうちこむ。国民党にねらわれる魯迅を助ける。弟嘉吉のやつていた木版画を、魯迅を介して美術学校生徒に紹介する。

三 満州事変、第1次上海事変と日本の中国侵略がすすむ。日本軍からもねらわれる魯迅をかくまう。



す。

日中友好協会倉敷支部でも、3月29日には『内山完造の生地を訪ねる旅』を行い、井原市吉井の生地や資料館を訪れます。また、秋には上海の内山書店のあとや魯迅記念館などを訪ね、没後50周年を迎えた内山完造を偲ぶつもりです。

昭和7年、魯迅は故孫文の妻、宋慶齡の作った中国民権保障同盟に参加する。同じように参加を希望した内山をおもいとどまらせ、書店経営続行こそ中国人民のためだと魯迅は諭す。また、国民党の人権無視を攻撃する文章を発表し、国内外へ訴えた。

四 昭和11年、魯迅の体調が悪くなる。須藤医師を頼む。日本での静養をすすめられる。わたしは防波堤になると魯迅は断る。10月19日、魯迅没。55歳。22日葬送。葬儀委員には蔡元培、馬相伯、宋慶齡、毛澤東らと並び内山完造が入っている。

日中戦争期にも内山書店は続く。昭和20年1月、みき没。8月敗戦。日本人居留民の代表委員となり、帰国邦人の世話をする。

日本語教室

財田教室の梅見

さいでん日本語教室では3月2日に後樂園に梅見に出かけました。

3月2日は後樂園の開園記念日ということで入場無料の情報をキャッチし生徒6人、先生5人でワイワイガヤガヤの楽しい行楽でした。

初めての生徒さんが多かったのですが、横山さんは一時帰国の23年前に一度来たことがあろうです。園内では備中神楽

昭和22年12月、帰国。翌年より中国漫談を講演。各地で800回を越えた。同25年10月、日本中国友好協会が結成され、初代理事長を勤めた。同28・31年、訪中。昭和34年春、体調をくずす。9月19日、中国の招待で病氣療養のため訪中。9月20日、北京の病院で没した。74歳。

没後、自伝というべき『花甲録』が出版された(岩波書店 昭和35年9月)。

今年没後50年に当たる。内山完造の業績と評価を啓蒙、啓発する作業を行うのは、わが日中友好協会こそがふさわしい。



の舞台が準備されていてにぎやかな笛太鼓の音が鳴り、夫国(主人)が舞っていました。梅はちょうど見頃でみごとなしだれ梅の前で記念写真を撮りました。入園者の多くもそれぞれ写真を撮ったりしてとても賑わっていました。

3月は焼けパンツの思い出(東京大空襲)

竹内和夫

アメリカ空軍の無差別空爆で、雨あられのごとく降りそそぐ焼夷弾の中を、やっと生きのび、パンツまでこがした、3月は恐ろしい月だ。

3月9日(1945年)の真夜中から、2時間半で10万人が殺された。重慶爆撃のしかえしとして、日本の戦争責任を問う。

東京都の50分の1の東部地帯(現在の江東・墨田・台東の3区)に344基の大群が100万個の焼夷弾を2時間半にわたって、落としたのである。

我が家のすぐ横では、真っ黒に焦げたゴリラが座っていた。すっぱだかのマネキンたちがごろごろと転がっていた。世界最大の空襲、この後に広島原爆がある。

経済安定本部(1949・4月)の報告書によっても、この3区(合計死者は78082人)にのぼる。

中日友好のためにと中国から贈られた丹頂鶴のおりの前ではひとしきり歴史の1ページを語り合い、風の強い肌寒い日でしたが、楽しいひとときになりました。赤井藤子

次回の新聞送付作業は4月1日(水)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。葉林和 内内井 稲小竹竹坪